

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会報 第116号

2011年3月23日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：西原 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

- 2月27日（日）エコ仲間の集い参加（常盤湖水ホール）
パネル展示をしました。ビオトープの活動報告を田村副会長がされました。

- 3月06日（日）① 備品倉庫の移動（ふれあいセンター→ビオトープへ）
（親子自然観察会備品はビオトープにて保管）
水路の掃除・看板ペンキ塗り
- ② U字溝を田辺商会より受領 30cm幅15m分(25個)
運搬をしました。
以上参加10名でした。

- 3月06日（日） ANCCA主催・ビオトープ共催、亀浦公園の「植樹祭」参加
準備は朝から4名参加、植樹祭にプラス4名、計8名参加しました。

- 3月19日（土）水車水路のU字溝の設置 15m（30cm幅×60cm25個）
池ゾーンの中島整備などを行いました。参加者は11名でした

- 3月20日（金） 【親子観察会】申し込み締め切りによる会員名簿整理
3月20日現在11家族13名他シニア・ジュニア含め25名になっています。

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者
予定はありません
- ◎行事
- 3月25日（金）【親子観察会】申し込み締め切り日 まとめ
- 3月29日（火）22年度会計監査
- 4月02日（土）総会
- 4月16日（土）親子自然観察会（春の野草）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

ノートの記載はありませんので、今月はありません

4. 会員の声

今月はありません。

5. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(34) ハグロトンボ (カワトンボ科アオハダトンボ属) *Calopteryx atrata* Selys

ゆるやかで水性植物の繁茂する清流に棲み、北海道を除く本州、四国、九州に見られますが、佐渡島、淡路島、屋久島、南西諸島などの離島、朝鮮半島や中国にかけても記録があるようです。

成虫は6月ごろより10月頃までみられ、羽化を終えた若いトンボは移動性が高く薄暗い場所を好み水辺より遠く離れた神社の森などで見られることがあります。若いトンボはあまり活発には活動せず集団で静かに暮らし成熟するのを待ちます。秋吉台の外周を流れる青影川で生まれた本種が標高300mほどの高い秋吉台との境界の林縁部の林でみられたりして驚かされます。成熟すると、未熟な時と違って日当たりの良い水辺に戻り縄張りを張り雌を待ちます、そして雄と争い雌と交尾したりと活発に活動するようになります。

全国的にもいろんな名前と呼ばれるようで、カミサマトンボ、ゴクラクトンボ、ホトケトンボ、メクラトンボなどがあるようです。

同じ仲間にアオハダトンボ、ミヤマカワトンボがいます。特にアオハダトンボは山口県より絶滅した可能性が高く気になります。本種とそっくりですが雌の翅に特徴があります、県内で見かけたら新聞の紙面を飾りますので、ぜひ発見を心掛けてください。

*アオハダトンボの雌の特徴として下図のように黒い翅の中に大きく白い“偽縁紋”があります。



ハグロトンボ ♂



ハグロトンボ ♀



ハグロトンボ 連結交尾

アオハダトンボ ♀ →

棲息場所は同じ条件ですがアオハダトンボは移動性が小さいために広範囲におらず狭い範囲でグループを持つようです。



6. 会よりの連絡事項（事務局より）

(1) 今だビオトープ土地の買い上げの問題は完結しておりませんが、会の活動はそのまま継続で行っていく計画で、23年度の総会が開かれます。

4月2日(第一土曜日)9時からです。22年度の会計決算報告や活動結果及び23年度の活動計画を報告します。特に一年休んでいた、稲作や子どもを含めた観察会を復帰するためそれぞれ予備会議を開きましたが全体会議として改めて検討していく所存です。

22年度活動に諸事情で参加できなかった会員の方も必ず参加下さる様お願いいたします。

(2) 宇部市環境関係の担当者が昨年より組織替えにより「市民環境部・環境政策課」となっており藤永義昭課長との今後の深いつながりとなります。

したがって同課の田戸 亨さんも会員となっていただいております
(会員名簿、メーリングリストに登録済み)

以前の環境共生課の名称はなくなり笹尾課長(当時)も長くお世話を戴きましたが他の部署に配属されております。

7. 編集後記

この度の東北関東大震災にて、地震や津波の被害に遭われた方とそのご家族に心よりお見舞いを申し上げます。

自分にとって今年、来年と、いろんな意味で大変な年、何事も前向きに行います。もちろんビオトープの活動も頑張ります、その中で「ビオトープの活動」「子ども会の活動」で一緒に出来る事があれば、ぜひチャレンジし、ビオトープに子供たちの笑い声が広がれば…と思っています。

(若林 正治 記)

朝、目覚めたら「ああ、夢だったんだ。」こう思えたら、どんなにいいか。東日本大震災で家も職場も失い、家族も行方が知れないという被災者の方のことばです。本当に現実に起こったこととは思えない、思いたくない、未曾有の大災害です。一瞬のうちに押し寄せた大津波が町全体を飲み込み、ことごとく破壊していく映像、地震による大火で、町の大部分が焼けてしまった気仙沼の映像、地震によって福島原発が制御困難になっている映像、本当にこんなことが！？というのが正直な思いです。私たちは自然を愛し、自然と共存して生きていますが、自然は時に、人間にはコントロールできないものであるのだと、改めて思い知らされました。絶対安心だといわれていた原発神話が自然の脅威で脆くも崩れた今、山口県でも進められている上関原発の建設計画についても慎重な対応が求められているように思います。

(中本 亜矢子 記)